



【1】 一種研開催報告

2025年11月の一種研を11月12日(水)～14日(金)の3日間にわたって愛媛県県民文化会館および別館で開催しました(写真1)。昨年の11月と同様、無線通信システム研(RCS)と併催しました。今回は、一般講演11件、AP/RCS研特集セッション9件、招待講演1件、特別講演1件、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter特別講演1件で合計23件の講演がありました。

AP/RCS研の特集セッション「RIS/IRS・メタサーフェスの設計・制御・応用に関する最新技術」では、様々なRISが提案され、設計や実験評価について発表がありました。最終日にはAP研/RCS研特別講演として陳先生より、「ミリ波伝搬環境改善のための液晶リフレクタレー」の講演がありました。RISのイメージとしてRCS研とAP研とでは異なる視点でとらえていることや、液晶リフレクタレーについて、液晶メーカーと協力して液晶材料選定も含めて研究してきた経緯や、液晶の利点と今後解決すべき問題についてわかりやすく説明いただきました。

AP/RCS研 招待講演では、豊田中研の舟山様に「ナノ構造・トポロジーを利用した信号伝送/処理システム」と題して講演いただきました。カーボンナノチューブを用いた振動子によるナノスケールアンテナや、トポロジーを用いた堅牢な波動伝搬の取り組みについて興味深いお話をいただきました(写真2)。

AP研/IEEE AP-S Kansai Joint Chapter共催の特別講演では愛媛大学の都築先生に「LoRa無線の伝搬特性とその応用」と題して講演いただきました。LoRaについて、変調のしくみをはじめとして基本的な知識をお話いただき、地域の社会実装を目的とした研究内容について紹介いただきました。また、愛媛の紹介も適宜お話いただき、聴講者にとっては愛媛の観光の参考になったと思います(写真3)。

【2】 ISAP2025の報告

10月27日(月)～31日(金)にわたってISAP2025がアクロス福岡にて開催されました(写真4)。日本ででの現地開催は2016年の沖縄以来、9年ぶりでした(ISAP2020はオンライン開催)。また、会場となったアクロス福岡はISAP2000での会場と同じです。登録来場者数は630名で、32か国からの参加があり、オーラルセッション数は64(論文数292)、ポスターセッション数は3(論文数234)と多くの発表がありました。また、展示は37社で過去最高の出展数となり、海外からの出展もありました。General Chairの陳先生こだわりのオープニングセレモ



写真1 一種研会場
(愛媛県県民文化会館)



写真2 AP/RCS研 招待講演
(豊田中研 舟山様)



写真3 IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演
(左から山本先生、都築先生、今井先生)



写真4 ISAP2025 オープニング

ニーに始まり、ホテルオークラ福岡で行われたビュッフェパーティーでも授賞式や余興で大変盛り上がりしました。Young Professional Programsなどの若手対象の新しいイベントもありました。海外からの参加者からも非常に好評だったようです。次の日本開催のISAPは、4年後の2029年に札幌で行われます。すでに新General Chairの高橋徹さんのもと、新しい実行委員会が動き出しています。

【3】A・P研各種委員会の報告

11月8日(木)に2025年下期AP研各種委員会が東京科学大学で行われました。各委員会での議論の内容については、12月11日(木)に開催されるAP研専門委員会で審議・報告が行われますので、支障のない範囲で主な内容を紹介します。

- ・表彰委員会：若手奨励賞、学生奨励賞などの選定が行われました。
- ・アンテナの歴史委員会：今後の歴史特別講演や歴史チュートリアルワークショップの企画について議論しました。
- ・伝搬研究推進委員会：伝搬データベースの登録状況や電波伝搬オーガナイズドセッション、伝搬モデリングコンペティションの進捗状況について確認しました。
- ・WS常設委員会：各ワークショップの進捗状況や今後の2種研の収支状況について議論されました。
- ・国際委員会：MJWRT2026の準備状況や今後の海外2種研および国際学会のスケジュールについて確認しました。
- ・論文委員会：2026年ソサイエティ大会企画や論文誌の特集号企画について議論されました。

【4】副委員長の戯言

◆ISAP2025クラスター？

今回のISAPでは、会期終盤で実行委員の皆さんの多くが体調を崩しました。その後、数日寝込んだ人もいたようです。次週に各種委員会がありましたが、体調が戻らずにオンラインで参加する人もいて、現地の参加者が非常に少なかったです。「ISAPクラスターが起きた。原因は絶対あの人だ！」と憶測が飛び交いました。会期中は、日中は会議の運営に勤しみ、その後、夜遅くまで楽しみ、朝は早くから朝礼に参加するというとてもハードな1週間だったため、後半は体力がかなり落ちていたのではないのでしょうか。実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

◆残業

11月AP研の懇親会で、席が一緒になった方々と、会社での残業の話をしました。「今は残業の規制が厳しくなっているけど、以前は夜遅くまで仕事をするのが当たり前だったよね。」などといった話です。弊社では、残業抑制の措置として、昨年からは会社のPCに、あるソフトがインストールされました。それは、18時になるとPCを強制的にシャットダウンさせるソフトです(作業中でも否応なく電源が切れます)。事前に上長に許可をもらえれば使用時間を延長できますが、このソフトの導入後は明らかに残業時間が減りました。業務効率化できていると信じたいです。「特に若い人にとっては、残業するなりして多くの時間をかけて一生懸命やる時期も必要なのではないか。」と同席した方の一人が言っていました。

◆道後温泉

11月AP研の最終日は16時過ぎに終了し、帰りの飛行機の出発まで時間がありましたので、AP研執行部の皆さんと会場の近くにある道後温泉に歩いて行きました。本館の浴室は少し混んでいて、ゆったりとは楽しめませんでしたが、良い湯加減の温泉でした。その後、近くのお店で夕食をとりました。都築先生が特別講演の中でご紹介くださった宇和島の鯛めしをおいしくいただきました(鯛の刺身を卵黄とタレに絡めてご飯にのせて食べます)。今回は、帰りの短時間での観光でしたが、松山には他にも観光スポットがたくさんあるので、後でゆっくり訪れてみたいと思いました。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 大島 一郎 (電気興業)
E-mail : ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)
AP-NET : A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて
A・P研HP : <https://www.ieice.org/cs/ap/>

